

平成28年度 第1回長井市振興審議会 議事録

開催日時：平成28年11月18日（金） 15時00分 ～ 17時00分

開催場所：交流センターふらり 視聴覚室

出席者：19名（委員13名、事務局6名）

■振興審議会委員 北川忠明会長、勝見裕子委員、加藤眞佐夫委員、大山勲委員、井上典嗣委員、横山寛道委員、菊地とく委員、高橋郁子委員、勝見英一朗委員、齋藤道郎委員、梅津律子委員、中井晃委員、長沼真知子委員
（出席13名、欠席5名）

■事務局 遠藤健司副市長 齋藤環樹総務参事
総合政策課 竹田利弘課長、平宗正主任、鈴木政輝主任

傍聴者：0名

【次第】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）
- 3 あいさつ
- 4 協 議
 - （1）今年度の振興審議会の進め方について
 - ①振興審議会について（資料1）
 - ②第5次総合計画の進行管理のしくみ（資料2）
 - （2）平成27年度事業の行政評価について
 - ①平成27年度事業の行政評価について（資料3、資料4）
 - （3）その他
 - ①行政評価関係スケジュール（資料5）
 - ②市民意向調査について
- 5 その他
- 6 閉 会

【議事録】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）

市長から新任委員3名へ委嘱状を交付した。
- 3 あいさつ

○内谷重治 市長

今年度に入りまして第1回の長井市の振興審議会にご出席頂き誠にありがとうございます。只今は3名の方に新たに委員として委嘱申し上げましたけど、どうぞよろしくお願い申し上げます。振興審議会は市の重要な事項に関してご審議いただく審議会でございます。

皆様には平成26年度にスタートいたしました第五次総合計画の様々な策定の際にも貴重なご意見、ご助言を賜りましておかげさまで素晴らしい第五次総合計画が策定することができ、なおかつ、今年3年目に入りますけども、順調に推移しているところでございます。

ご案内のように現在はこの第五次総合計画と併せて昨年の9月に策定いたしました国の地方創生に合わせた長井市のまち・ひと・しごと創生の人口ビジョン、そして総合戦略というものを策定いたしました。これにつきましては内部で作った計画ではございますが、これは当然第五次総合計画に沿った内容としてございますし、それを国の地方創生の今年から5年間の様々な交付金などを活用させていただいて、第五次総合計画をいろんな形で実現するための貴重な財源として使わせていただくという考え方でございます。

こちらについては後程、事務局のほうからも説明があるかと思いますが、例えば長井市単独のものとしたしましては昨年度、推進交付金の前に加速化交付金等々、様々なこれはどこの市町村もほぼ申請すれば頂けるようなものではございますが、そういったものの整備の他に今年からは推進交付金ということで、この10月にですね、タスの2階にオープンいたしましたインキュベーション施設「i-bay（あいべい）」という起業・創業の支援の施設を整備させていただいたところでございます。

加えて長井小学校第一校舎、木造の貴重な校舎ということから、これを学校施設から教育施設として様々な新たな使い方を考えていこうということやら、あるいは二次募集では先ほどのインキュベーション施設に新たに新規就農であったり、あるいは観光交流であったり、6次産業化であったり、また、長井市のシティプロモーションなどとしても活用出来るようなものに、その枠を広げながら第五次総合計画の目標に向かって色々進めているところでございます。

本日は皆様には、第五次総合計画の進行の状況などを把握頂きながら、行政評価としてぜひご意見を賜りたいと思っておりますので宜しくお願い致します。PDCAサイクルということで以前から行政で言われておりましたが、新たに国の地方創生の中では特にKPIという新たな指標が実績の数字として求められておりますので、そういった上では、是非進行管理について皆様の忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

○北川忠明 振興審議会会長

第五次総合計画の策定、進行管理で委員の皆様には大変お世話になっております。今回、新しく審議委員の方を迎えまして宜しくお願い致します。早くも一年過ぎようとしているということなんですけど、熊本地震とか台風であるとかそういう災害がありましたけれども、私は政治のほうが専門ですが、異常気象、自然災害みたいに国際政治の世界っていうのはものすごく変動しています。

イギリスのEU離脱であるとか、トランプさんが大統領に当選したとか、思いがけないことが起こる。それだけ不安定性を増しているというのが今の世界だろうと思います。益々不安定になってくる。日本を取り巻く環境っていうのはずいぶん不安定になってくるということだろうと思います。不安定さが増すなかでも、むしろ地方というのは安定している。豊かな生活が送れるということで見直しも進んでいくんじゃないかと思います。

内谷市長を先頭にインキュベーションであるとか、長井小学校とか、そういういろんな資源、地域の資源というのが長井には豊かにあるかと思います。そういう資源を活かしながらですね、幸せな人生を送れる街にしていこうということで総合計画の基本理念になっているわけです。地方創生の観点も含めながらですね、進捗管理をやっていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（市長途中退席）

3 協 議 【座長＝北川会長】

（１）今年度の振興審議会の進め方について

①振興審議会について（資料１）

資料１・２に基づき、事務局から説明。

(会長)

新任委員の方もおいでですので、説明を詳しくしていただいたんですが、何かご質問等ございましたら。よろしいでしょうか。

→ 意見・質問等なし

(2) 平成27年度事業の行政評価について

①平成27年度事業の行政評価について（資料3、資料4）

資料3、資料4に基づき、事務局から説明。

(会長)

資料については皆さま事前に目を通して頂いていると思うのですが、シートの見方で分かりにくかったところなどございましたら、手を挙げていただければと。説明について何かご質問ございましたら。

(委員)

大変非常に細かく、それぞれ分析されていて素晴らしいと思うのですが、一つだけお聞きしたいのですが、全体で「重点化」、「改善実施」が大半を占めているようなんですが、その重点化、改善実施というのは人員とか予算がどちらかというと増えるか現状維持かと思うんですけど、それが大半で、人員とか予算が少なくなる「縮小」がほとんど無いになっています。それは全体のパイがこれから増えるというふうな見込みの何かがおありなんではないでしょうか。それとも、このパイは変わらないけれども、何か工夫して重点化と改善実施というのを進めていくということなんではないでしょうか。その辺をお聞きしたい。

(事務局)

委員からありましたように、重点化していくには限られたパイの中ですので、予算・人員等は一義的には増えないと重点化できないというのは当然なんですけど、今の長井市の現状を見ますと人口も減ってきます。当然、市の職員も増えるということは想定しておりません。ただ、不要な事務事業、一本、一本の個別の事務事業の中で必要ないものはスクラップアンドビルドしていく。改善実施の中で当然、増やす改善ではなくて、見直しをしていないものは削っていくという改善実施も含めて各担当課のほうでも考えて頂きたいという事で、限られた枠の中で重点化していきたいと考えております。

(委員)

ここには出てないような細かい事業一つ一つの中で、削れるものは削って、つなぐものは重点化のおっきな主要事業のほうに当てていきたいというふうに理解してよろしいですか。

(事務局)

はい。

(会長)

予算編成にどう活かしていくんですかという質問でした。他に何かお気づきの点ございましたら。

(委員)

先生いいでしょうか。資料4の2番の地域医療の指標項目として「命のバトン」活用についてですが、二次評価の評価理由を見ると命のバトンをどういかに多く使ってもらって言うことじゃなくて、訪問看護事業のニーズが高いので24時間体制を目指したいって言うふうなことが出てますし、病院の改築の話も出てます。ちょっとこの表だけを見るとなかなか分かりづらい。5

1 事業の評価シート見ますと、命のバトンだけでなく、いろんな項目はあるんですけども、やはり指標ってのは命のバトンの活用率ってなってるんですけど、なんとなくすんなりとくつつかない感じがするんです。

(事務局)

お答えいたします。実は総合評価の会の中でも、事務の会の中でも出た意見でございまして、今回、第五次総合計画を策定して、とりあえず五年間はとりあえずこの指標でいくということで五次総と連動してしまったと。ところが今回やってみまして途中で例えば今回で言えば総合戦略という地方創生っていう国の話題があったわけですけど、そこまで出てくると若干馴染まないところが出てくる。ちょっとジレンマを抱えております。

ただ指標については毎年変えると定点観測できなくなるということで、非常に悩ましいところ。どうやっていったら解決できるのかと。事務的にも非常に悩ましいものですから、何かいい解決方法があれば是非皆様にもお伺いしたいなと。なんか逆にになってしまいましたがかなり悩んでるところでございます。

(会長)

委員よろしいでしょうか。

(委員)

確かに実際やってみると、当初指標が合わなくなってくるというのは分かりますし、同じ指標をずっと使い続けないと比較できないその辺は良く分かります。

(会長)

今年はですね、参考資料として行政評価シートというのが一次評価、二次評価とあって目が悪くなってきて、なかなか見づらいつて言うのはあるんですが、一応参考までにと言う事で出ております。

(委員)

よろしいですか。評価そのものではないのですが、改善の方向性についてですが、この中の02の(8)の学校教育ですが、その不登校児童生徒数の率が27年度の実績が1.2%、目標が0.5%なんですけど、これはなかなか難しいことだとは思いますが、二次評価のこれからの方向性について「不登校については引き続き、改善に取り組む」としてるんですが、今、不登校については非常に話題になっている事ですし、子育て支援について長井市としては大きな目標に掲げているわけですので、具体的にその改善策について言及する場面がありましたらお教えいただきたい。

(事務局)

評価の会議の中でも、私どもの総合戦略の主軸の中、第五次総合計画の中でも教育というのが重点的な項目になっておりますので、こういったものにつきましては当然重点対応すると。不登校の指標については概ね計画通りというよりはむしろ悪化しておりますので、そうではない方向ということで、評価会議の中では具体的な策というのはなかなか出なかったのが現状です。なので、担当課のほうについてはよく考えていただきたい。

今年から学校教育課のほうでいわゆる教員の方が3人体制になっております。長井市では過去には指導主事の先生が1人だった。それを2人に増やし、今年から3人と。特に現場と教育委員会を密接につなぐということで、現場のほうのでも考えていただきたいということで、こういった記述に留まっているというのが現状でございます。以上でございます。

(委員)

この数字は現在対応を執られているわけなんですけど、その対応の中に何か改善するものが無かったかという視点も必要だと思いますので、そうでないと、これを改善するためにもっと体制を

厚くしようというだけでは、果たして改善につながっていくのかという気もしますので、現状についてもう少しその体制がどうだったかということに踏み込まれてはどうかというふうに思います。

(事務局)

はい。今、頂いた意見を今後の評価会議等で活かしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(委員)

評価の結果の方の04の(20)と(21)、05の(24)っていうのは、まちなか活性化ということですからつながってくることなんですけども、商工観光課にまちなか活性化ってありますが、建設課のほうにも記載があるわけで、具体的に各課だけで目標値を設定してなかなか難しいところがあると思いますけど、課の相互の意見交換というか、そういった事っていうのは行っているものなんでしょうか。それを踏まえて各課での達成率っていうものを考えていかなければならないんじゃないかなと思ったんですけども。

(会長)

いかがでしょうか。

(事務局)

はい。目標値の設定の段階では、いわゆる市の組織がどうしても縦割りになりがちという現状でございました。その後、昨年度から参事制をとりまして横の連絡をもっと密にしようという体制をとって、例えば歩行者数といってもハードの整備は建設、ソフトの整備は商工観光というように今まではスポットの課でしたが、その上に参事ができまして産業部門の参事、あと建設部門の参事ということで、もっと横の連絡を参事会、庁議等を密に開いて連携をしていくという体制で取り組んでおりますので、以前より横の連絡は取れるようになったというふうに感じております。

(副市長)

貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。本日、提示申し上げている資料については事務局からございましたように、参事と総務(課)、財政(課)、地域づくり(推進課)というメンバーで概ね三日ほどの時間を費やして一点、一点審査しました。それぞれ今まで自分の課にその数値の責任を持つのが嫌だとか、仕事が増えるから嫌だというのが一昨年までの状況でした。去年から参事制にして、参事に責任を持たせて参事間で調整しよう、推進についてもお互い承諾した数値をみるということで評価についてもそれぞれの立場から言いたいことを言い合って、意思の統一については非常に進んでいると思います。

あと、委員から不登校の対応、具体的にとありまして、具体的に先の現場での改善がわかるのかという点については、その都度担当課、教育長等々のニーズ等を聞いています。加えて予算の中で特に学級の特別支援をどのように配置していくかそういった議論。また、教員の現場での研修と研修できる職員室の中の状況があるか、そういった話し合いをしています。具体的に不登校についても改善しなければならないというところに留まって、具体的なところは現場に任せるといような診断処理になっております。

さかのぼって申し訳ございません。指標が全体の主要事業を示す象徴的な数字になっていないというごもっともなお話で、策定した時点で設定した命のバトンの数値ですが、2年間の経過の中で行政の状況、社会の状況が変わる中で、この数値については定点観測に加えて別の数字も設けなくてはならないんだなと思ったところでございます。以上3点について簡単でございますが。

(会長)

ありがとうございます。進行管理するうえで、基本的に重要なご質問ばかりでそれについて事

務局からお伝え頂いたんですが。

(委員)

観光振興の中の(21)、先ほど説明ありましたが、観光地域づくりプラットフォームの設立。平成28年4月にやまがた長井観光局としてスタートしたわけですが、その中で、交流人口の増加を増やすという事において、今もう少し幅広い事業内容を充実していただいて、平成30年度までに法人化を目指すわけなので、その法人化においてしっかりした方向性を見いだせるような部分まで何とかお願いしたいなと思ひまして。最初、「現状維持」ってあったんですけど、二次評価で「重点化」に指定されて感謝しているところでございますけど。これから独立していくための体制づくり、事業もそうですが、予算も付けていただかなければならないと思ひますけど。そういった形で進めていただきたいと思います。宜しくお願いします。

(副市長)

ご要望という事で、委員には今回の観光局設立にもご配慮いただきましてありがとうございます。スタートしましたが、それぞれ観光局で相当な数の商品売り出しました。やはり今までの花観光以外の観光については今一つというのが現実であります。担当の局の職員も頑張っていますが、まだまだアイデアを形にしてエージェントなりお客様に営業する力が弱いと思ひまして、10月に市のほうから一人、商工観光課の職員を派遣いたしまして増員させていただいて29年度に向けてのプログラムを作っているところでございます。10月の補正予算を予定しておりますが、エージェントさん、特にバス会社バスツアーについては一台あたり5万円の補助を出して、バス会社さんにとってネックである運転手の確保につながるんですが。そのバスが長井市に来たら2キロ以上、30分ずつ立ち寄ってもらって見てもらう。それもまた状況を把握して補正して参りますので、30年度に法人化を達成しようという動きで、さらに重点化していきたいと思ひます。

(会長)

いかがでしょうか。一次評価を経て二次評価で政策変更なり修正する必要があるので、重点化するとかですね。地方創生の観点から重点化するとか、いろんな取り組みの状況を見ながら大体バランスが取れているように見受けられるのですが。今お話しのように、重点化するとき具体的な方向性とか、中身とかについてですね、具体的なご要望があれば、副市長もいらっしゃいますのでお聞きできればいいんじゃないかと。

(委員)

突拍子もないこと伺ってよろしいでしょうか。11ページでございますが、学校教育のところでございますが、市民の評価も高い特に「4-1主要事業の評価」っていうのは英語教育の充実なんだという事が真ん中に書いてますが、こういうのに対しまして評価結果もよろしいというふうに思っておりますけど。今度、下の5の12番のところに重点戦略事業に丸印が付いている下のほうでございますが、「児童生徒生活リズム改善事業」っていう形で児童生徒の体力、学力の向上がなされている。しかも適正なメディア接触時間が自己管理できる生徒の割合もいいとなっているわけです。私も長らく学校教育に携わってきて思うんですけど、新しい、例えば英語教育に重点を置く。それからメディアに対しての自己規制力を育てる。そういうのはとてもこういうところに取り上げ易いんですけど、いわゆる学力テストの結果なんて山形県はなんかレベルから下がっているわけですね。そういうことに対してのものっていうのは、なんか教育委員会預けみたいになっちゃうもんなんじゃないかな。最も本質的なところが端的に数字に出るのが、ああいう学力テストなんかだと思ひますけれど。事業としてはちょっと取り上げにくい。でも、最も本質的なところっていうのは、こういうところに出せないんじゃないかな。その事を思ひます。

(会長)

私も山形県は教育県ということで、高いんじゃないかなと思っていたら、低い数字が出たってということで、そういうふうな事もあるんじゃないかなって思うんですが、その問題についてはどこでどういうふうに取り組まれるかというお話かと思いますが。

(事務局)

お答えします。繰り返しになりますが、ここに書いてあるのは、その時点の五次総の段階で出た事業を列記しているものでございます。その後、時代の流れと共に、例えば英語教育もそうですけれど、子どもの学力低下がすごく叫ばれておりまして、実は今回の12月補正で付く見込みなんですけど、新聞を読んでも子どもは学力が高いという事が色々な調査結果で分かったという事でございます。小学校にはいわゆる「小学生新聞」がございまして。小学校の高学年には各クラスに新聞をとって子どもに読ませようと、家で読まないなら学校で読ませようという取り組みをしたいという事で今考えております。それについては明らかに国語力がつくと、読む力がつくと算数もできるようになると。相関関係があるという調査結果も出ておりますので、そういうのにも取り組んでいきます。

ただ、なかなかそういった事を一つ一つここに書けないとなっておりますが、そういった取り組みを行っているという事をご理解いただきたいと思います。先ほど委員からもございましたが、作った時点で一年一年変化するものですから、どういった指標、どういったものを取り上げていくかというのは日々動いているところを上手く表現しながらということで、そういったものも上手く記載できるように考えていきたい。

(副市長)

今、指標についてのデータの説明を報告しました。英語の力については委員もご記憶かと思いますが、この3月の新聞で山形県の英検の3級の取得している中学生の数が全国に比べれば低いという事がありました。また、教師の準1級以上の能力を持たせるべきだという文科省の考え等々、英語教育にも大きく国自体が力を入れてきているというような状況。そういった中で、長井としても英語力、英語の教科については力を上げていきたいという事で、現場の英語の担当の先生あたりに英検の受験の為の受験料を市のほうで負担するっていうのはいかがかという事を問い合わせしました。その結果、いきなり英検の受験料を市が補助するのではなく、その前の3級の英検を受ける前に今の学力で何が足りないかを把握する試験があると。それに対しては意義があると思われる。指標として長井市の学力テスト結果をとる事でしたが、各市町村の教育委員会は公表しないとなっております。長井市にも数値は来ています。結果については学校現場も十分重く受け止めています。そういった教育現場の授業の改善には、もちろん先生方研修を強めていかななくてはならないとなりますが、アウトメディアの教育、アクティブキッズ、幼稚園、あるいは児童センター、保育園でアクティブキッズという運動を長井市はやっていますが、導入した幼稚園の子供たちの小学校1年生になってからの学習能力がいい影響があるという事でございますので、教育については幼児期から一貫して長井市としては教育の取り組みを進めていきたいと考えています。指標については、仰るように県内何位とか、以前、山形県で長井中学校が1位だったとかありましたが、それはちょっと今、社会的には相いれない指標になっているので、委員はご承知だと思いますが、ご理解いただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。

総合計画の前期の中間地点という事ですけども、やっぱり新しい課題なんかも出てきますし、その都度目標数値の修正っていうのは新しい課題、まあ事業ですよね。施策・事業っていうのは考えていかなければならないっていう事もございますが、当初立てた目標よりも高いところに行ければ良いわけですから、かつ当初考えていたものよりもいい方向に事態が進んだということになれば一番良いわけで、何かお気づきの点ありましたら、ご意見頂きたいのですが。

(委員)

私のほうから抽象的かもしれませんが、これだけキチッとデータ分析を見させて頂きまして大変ご苦労なされてるのではないかと思います。中心市街地をやっているのは、元気が無い。元気が無いっていうのは、収入ですよ。学力の差と収入の差っていうのはよく出ますよね。ですから活性化をどうやっていくかという、先日ちょうどそういうお話がありまして、ある代議士が言いました。アメリカの白人男性の大卒の方の平均寿命と現在の白人男性の高卒の方の平均寿命の差が15年あるそうです。数十年前か20年前かわかりませんが、5年だったそうです。差が。それは医療費だと思うんですけど、日本の医療のかたちは素晴らしいものなんだと昨日改めて感じまして。医療費を上げないでくれっていうご高齢の方やそういった方の気持ちがよく分かる。それが結局は地方で高給を取るという事がなかなか難しい。

我々はどうしても今、雇用を増やすと、もしくは雇用を維持しながら設備投資すれば3分の2の補助を500万まで、もしくはこの事業であれば3,000万円まで出すよということで、投資をなさないと国から来てるんですけど。それはやはり全て今、ちょっと沈み加減があると。そういうことで、この素晴らしい要件で元気になんか、元気を吹き込むようにするにはどうしたらいいかって私はいつも思ってるんですけど。また別のパターンありました。小国町にツルハが出来る。飯豊にもツルハが出来る。反対する人、一人もいない。と代議士が言っておられました。以前であれば反対運動があった。私、これが怖いんですけど、なんかある時に、皆さんが一生懸命築き上げたこの計画できちんとまちづくりが8割方出来た時に、政権交代というかトップがいきなり、気持ちの中で逆をいったときにすごく怖いものですから、市民の方にこれだけきっちりやって事業計画してるし、審査もしているんだという事を分かるようなですね広報活動をやっていたら。長くやっていかないと、まちづくりっていうのはなかなか出来ないものだと思うんですよ。内容をこれだけきっちり審査してやっていますよという事を、皆さまの事を考えてますって事の広報活動のほうにもお力を入れて頂ければなと私は思っております。

(事務局)

ありがとうございます。やはりこういった結果を市民の皆さまに知っていただく事が重要な事でございます。昨年度にありましたが表の表だけでなく、裏の参考資料まで出してはどうかというご意見もいただいたのですが、それについては非常に迷っているところでございます。というのは、各課で評価の仕方が見ていただくと分かるのですが、一次評価の仕方がちょっとばらつきがあるところが若干ございます。なので大きな表だけにしようかと迷っているのですが、いかに市民に知っていただくか。実を言いますと、ネットで公表してもなかなか見てもらえない。じゃあ市報に出すかという、広報ながいもなかなか見て見られない。ツイッターしている人はツイッターしか見ない。フェイスブックしている人はフェイスブックしか見ない。多極化しているのですから、すべてのものに出すのかという事を上手く考えて市民の方に伝えていきたいという事を私どもも考えたいと思いますので、宜しくお願いしたいと思います。

(委員)

タス2階のインキュベーション施設がありますけど、ジオラマというのでしょうか、観光プラットフォームの所と中心市街地とジオラマがあって、このような形になってくるといような模型でもあれば、分かりやすいし、あそこの部屋で中心市街地の方向社か何件かで会社作ってるとか、そういった方々が集まられて新商品の開発ができるようにとか、具体的な説明はこれからおそらく市のほうでなさるんでしょうけど、すべて密接に中心市街地と観光局とインキュベーションシステムと若者の創業支援と全部つながっているもので、そのなんか一つ形になるようなものをあそこに置いて頂けると私はパッと目を見た時、「こうなんだろうな」と見させていただければありがたいなと。あれだけの狭さなんですよ。長井駅と観光交流センターと中心市街地はあそこですから。そういうのがあれば私は分かりやすいと思います。

(副市長)

今まで通りの紙媒体、まあ立体的にイメージできるようなものを工夫してちょっと持ち帰って

考えたいと思います。産業振興なくして福祉も無いわけです。産業振興という点からもこの資料を見ていただくという事で工夫していきたい。

(会長)

本当にこれだけきっちりとですね、進捗、進行、チェックをやっているところは、あんまり無いんですね。これだけ丁寧にやっているところは。一次評価から二次評価、振興審議会で皆さんから了承いただいた。今日頂いたご意見は本当、本質的な意見ばかりで、総合調整に基づくまちづくりとか。現場でも事業を重点化するするって時にどういうふうな事をやっているのかとか、新しい課題としてこういうのがあるとか、それをどう取り扱っていくかとか、本当に総合計画を進めていくうえで基本的な意見を頂いたんですが、なお市民一般の方に見えやすくというようなお話かとおもいますが。ご意見、お気づきのところがございましたらこの際どうぞ。

(委員)

第五次総合計画の将来像として「みんなで創るしあわせに暮らせるまち長井」というふうな事で示しているわけですが、この事業内容を一つ一つ見させていただきましても、重要な事業だなと思ひまして見させて頂いております。観光とか他から来る方の対策も一方では重要なわけですが、やはりここに住んでいる方が高齢化しておりますので、そういった方々が安心して安全で暮らせるようなまちづくりという観点からすると、周りのほうには申し訳ないけれども、中心市街地の活性化含めて住みよいまちづくりという観点かなと見ております。

05の3ページ、住みやすく魅力あふれるまちづくりということで、住宅とかですね、あと高齢者の交通事故なんかも急に同じようなことが毎日のように出てくると連鎖反応のようで不思議でしょうがないんですが。田舎は車社会なので車って本当に必要だと思うんですが、車が無くても暮らせるような街・地域づくりという事と、中心に人が集まってもらって、住宅があって鉄道とかバスを使つての移動というふうなことからすれば、この事業っていうのはまとまっているなと思ったところでした。

住宅なんですけど、聞くところによりますと、人口は減ってきているけれど世帯数はほとんど変わらない。ということは同じ世帯の若い人が住宅を求めている事なんだろうなと思ひます。また、住宅の供給の区域についても、どこを開発するかという事も全体像として捉えて行くべきでないかなと思います。あと、都市整備とか公園といったものも、やはり中心のほうに整備して、車社会じゃなくて歩いて用事の足せるような地域づくりという事もこれから必要だと思いますのでそういった事の主要事業を是非推進していただきたい。

(会長)

いかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。市としても中心市街地とプラス周辺部については、いわゆる「小さな拠点」という事でなるべくコンパクトな中心市街地と周辺部の各エリアで拠点をつくっていくということで、そこを上手にネットワークでつないで皆様が暮らしやすい、幸せに暮らせる街を目指しておりますので、そういった事のPRも重ねてしていきたいと思ひます。

(会長)

いかがでしょうか。だいたい一時間くらいご審議いただいたのですが。

(委員)

一次評価、二次評価ちゃんと評価されて、理由もきちんと納得できますが、その中で「縮小」っていうのが0で実際問題、これは無理だとか、断念せざるを得ないというものをなんか評価としてこれからはこれらが必要であるという理由を位置付けているようなものは無いのでしょうか。

(事務局)

第五次総合計画の5年間の中で重点的にやっていきたいということで、主要事業が設定されているものですから、主要事業毎ではそれを縮小していくというのはあまり考えられない。ただ、見直しの時にそれは廃止だよという事は出てくると思います。ただ、個別の小さい事務事業については廃止というのもございますので、この表からはなかなか見えてこないと思いますが、内訳の表からは見えてくるのというのはございます。

(会長)

他の皆さん、ご意見ございましたら。宜しいでしょうか。今年度、28年度という事ですので、ただ後期基本計画に向けた評価とかですね、ちょっと先になると思いますが今日頂いたご意見もまた活かして頂ければなと思います。ほかに宜しいでしょうか。

平成27年度事業の行政評価につきましてはご承認頂いてということでしょうか。

→ 異議なし。

(3) その他

①行政評価関係スケジュール(資料5)

②市民意向調査について(当日配布資料)

資料5、当日配布資料に基づき、事務局から説明。

(会長)

何か皆さんからございましたら。

(委員)

他の市町村などで類似のアンケートをされていると思うのですが、その質問項目と共通するようなものがあれば、なお長井市の特性が分かりやすくなるのではないかと感じましたので、例えば長井市に対する愛着。出た数値が非常に高いと言っていいのか、普通だと言えるのか。それが同じよう市町村と数値が合えば、評価しやすいし、あるいは大都市圏だとかうだけど小さい都市だとかいう数値になるという特性づけなども出来るかと思うのですが。もし、ほかの市町村の関係で類似の物がありましたら活用できればいいなと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。今回、県内のコンサル会社を指名しましてほかの市町村や県のアンケート調査の処理もしておりますので、受託会社と協議をしながら比較検討していきたい。

(会長)

他にいかがでしょうか。

(委員)

ダイレクトに、フラワー長井線上下分離になって良かったんですけど、アンケート調査の中に健康対策定期というか、通常、車で通ってますけども、どっかの駅から自分の勤務地まで、健康増進の為にシニア割引健康定期とかそういう質問をアンケートに入れて頂けるってことはいかがでしょうか、委員。

(委員)

やるとすれば、そういったニーズが多ければ、結果が出れば活用させていただきます。

(会長)

なかなか分量増やすというのも難しいと思いますが、ちょっと検討していただいて。

(事務局)

12ページに公共交通機関の確保についてとありますので、自由記述欄の所にでも入れるなどで受託会社と検討したいと思います。

(会長)

いかがでしょうか。

(委員)

今話題になっている公共施設の整備等についてもアンケートに入れて頂ければと思いました。

(事務局)

検討させてください。

(会長)

よろしいでしょうか。本日の協議については以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

4 その他

なし

5 閉 会

以上